

主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善について 「学習者主体の授業」の提案 ～令和5年度鹿児島学習定着度調査を活用して（理科）～

義務教育課

小学校

令和6年1月に実施した鹿児島学習定着度調査の結果では、小5理科の平均通過率は75.4%で、このうち「知識・技能」は77.6%、「思考・判断・表現」は72.8%でした。

「知識・技能」、「思考・判断・表現」ともに、概ね良好な結果でしたが、大問3(1)の磁石に引き付けられる物に関する問題は、通過率55.6%と課題が見られました。

理科では、「児童にどのような力を身に付けさせるか」（目指す児童の姿）を明らかにして、内容や時間のまとまりを見通しながら、単元の指導計画を作成し、「問題解決の過程」を踏まえた授業を展開するとともに、特に、児童自身に問題を見いだすことができるようにする場面を大事にしながら、児童が見通しをもって実験や観察に取り組むことができるようにすることが必要です。また、終末場面では、児童が自分の言葉でまとめることで、「分かった。できた。」と実感させることが大切です。

特徴ある問題から

【小5 ③ (1)】平均通過率：55.6%

〔例題：R4全国学力・学習状況調査 理科 大問1(5)〕

③ 正子さんたちは、いろいろな物にじ石を近づけて、気づいたことや疑問に思ったことについて話し合っています。次の各問いに答えましょう。

正子： じょうぎやコップは、じ石につかなかったよ。

太郎： クリップやジュースのかんは、じ石についたよ。

正子： クリップやジュースのかんがじ石につくということは、電気を通す物はじ石につくんだね。

太郎： でも、はさみの持つところはプラスチックでできているから電気を通さないけど、じ石にはついたよ。



(1) このような話し合いを通して、正子さんたちは、問題を見つけ、解決していくことになりました。正子さんたちの話し合いで見つけることができない問題を、下のア～エから1つ選んで、その記号を□に書きましょう。

ア クリップやジュースのかんのほかに、じ石につく物はあるのだろうか。

イ 電気を通す物は、じ石につくのだろうか。

ウ はさみの持つところがじ石につくのは、どうしてだろうか。

エ じ石のN極やS極とは、どんなせいじだろうか。

【問題を解決するための授業づくり】

本問題は、いろいろな物に磁石を近づけて、気づいたことや疑問に思ったことを基に、問題を見出す授業場面を想定して作成しています。実際に、本問題のような場面を単元の最初に設定し、児童に問題意識をもたせることで、見通しをもって問題解決に取り組むことができます。

他の単元でも、最初に児童が身近な事象・現象から気づきや疑問をもたせる時間を設定するようにすることが大切です。

授業づくりのポイント

- 1 児童自身が問題を見いだすことができるようにすることで、問題解決への確かな見通しをもたせる工夫。
- 2 児童一人一人が、観察、実験の主体となるような指導計画の作成。
→ 「児童生徒にどのような力を身に付けさせるか」（目指す児童の姿）を明らかにして、内容や時間のまとまりを見通しながら、単元の指導計画を作成することが、資質・能力を育成することにつながります。
- 3 結果を分析し解釈する場面において、「理科の見方・考え方」を働かせる手立ての工夫。
- 4 終末の場面において、児童が自分の言葉でまとめ、振り返り、「分かった。できた。」と実感したり、学習の仕方を振り返ったりする時間の確保。そして、次の学習や新たな疑問につなげる手立ての工夫。

単元の導入や事象提示で、児童自身に問題を見い出させることで、問題解決的な学習が展開されます。



問題の会話文のように、差異点や共通点を基に、問題を見いだすことができるようにすることがポイントです！（学年を通して育成する問題解決の力：第3学年）



学年を通して育成する問題解決の力

第3学年：差異点や共通点を基に、問題を見だし、表現すること

第4学年：主に既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想し、表現すること

第5学年：主に予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現すること

第6学年：主により妥当な考えをつくりだし、表現すること

